

富山の原風景

北アルプス立山連峰に囲まれ、日本海側最大の湾である富山湾に面して、豊かな水資源に恵まれた富山の平野には、水田と調和した美しい風景が広がり、里山の風景とともに豊かな生活文化が形成されてきました。これらの風景の中の家々は、百年ほど前までは現在で云う「ゼロカーボン住宅」だったと考えられます。しかし、現在、生活様式の変化と共に、冷暖房や電化製品の利用を前提とした住環境は必須となってきています。一方で、高齢化や人口減少が進行し、農村部、都市部を問わず、コミュニティのまとまりが薄まり、それに対して都市部ではコンパクトシティ化を進めるなど、地域の環境は大きく変わりつつあります。さらに、今春の大震災では、速やかな震災復興はもとより、全国的に建物の耐震化が喫緊の課題であることや再生可能エネルギーの重要性が衝撃的なかたちで私たちの前に突きつけられています。この状況の中で、私たちは、未来にどのような風景を残すことができるのでしょうか？



豊かさを受け継ぐために

豊かな自然環境＝生活環境を守るために、もっとも簡単なことは「自然を壊さないこと」に尽きます。いま在る自然を残し、里山に手を入れ、できるだけ自然の木、材料を使うこと、そして、通風、断熱、採光に優れ、十分な耐震性のあるゼロカーボン住宅を目指すこと。再生可能なエネルギーを利用し、無駄なエネルギーを使わないこと。細かな技術上の問題は別として、目指すものは「普通に考えてわかりやすいこと」です。それなのに、工業化が進み、機械に頼った住宅環境に慣らされた状況の中では、「他人事」のように、なかなかその方向に進んできませんでした。しかし、人間という生き物として、肌で感じて気持の良い「普通に考えてわかりやすい環境」は、誰もが切実に望んでいるはず。この視点に立って、私たち設計者は、自らの技術的なスキルアップを図りながら、より良い環境建築を人々に発信し、理解を広めていく必要があります。



環境建築へ

私たちは環境建築への意識の高まりのなかで、地球環境に与えている負荷の理解からその負荷を軽減する建築手法までを多面的に分かりやすく、基礎・基本から実務への応用までをトータルに学ぶ連続講座として、2009 JIA北陸支部連続環境講座：「富山環境塾－身につけよう、環境建築A・B・C－」と題した全6回に亘る、中村勉先生をはじめ多彩な講師陣による講演会を2009年に開催しました。また、翌年には、2010 JIA環境講座見学会「環境建築を体験しよう！」を開催し、七沢希望の丘初等学校をはじめ、大東文化大学板橋キャンパス、積水ハウスサステナブルデザインラボラトリー、立川市庁舎等を視察してきました。2011年は、これまでの環境のテーマに耐震化の要素を加え、「とやまデザイン講座2011」と題して環境デザイン講座と構造デザイン講座を開催し、環境建築と耐震化への理解を深め、より地震に強いゼロカーボン建築への挑戦を続けています。

